

▼ マテリアリティ/KPI・2030年度目標

	重要テーマ	マテリアリティ	考え方・選定理由	KPI (2030年度目標)		2023年度実績 [補足・参考]
	選定理由			評価指標	目標値	
人的資本	当社グループは、パーパスに基づき、持続可能な社会を実現するために、「技術」と並んで重要な資産である「人」＝「人的資本」を継続的に拡充していくことが企業価値の持続的向上を生み出す重要なファクターであると位置付けています。	多様性・公平性・包摂性	国籍・性別・世代等にとらわれず、多様な人材を採用・育成し、従業員一人ひとりが最大限に力を発揮できるよう、個性の尊重と公正・公平な処遇、働きやすい職場づくりに努めることを、多様性に関する基本方針としています。この基本方針に基づき多様性を拡大するとともに公平性と包摂性を高めることが、多様な人材がそれぞれの持つ能力を高い意欲を持って発揮することにつながり、当社グループの永続的進化を実現する基礎になると考えています。	TISP採用・在籍者数	120名以上	75名(2024年3月末現在)
				障がい者雇用比率	3.45%(2023年度法定雇用率:2.3%の1.5倍)	2.3%(2024年3月末現在)
				女性管理職者比率	10%以上	全管理職者数に対する女性管理職者の割合3.3%(2024年3月末現在)
				従業員のエンゲージメント向上	2022年スコア46 ^{*1} を基準とし、できるだけ早期に20%UP達成とその維持を目指す	－ (2023年度は実施見送り)
		通信機器系：有資格者数		60名	－	
		コネクタ系：製品・工法の発明者数		25名	－	
		メディカル系：医療事業人財製造販売業者における三役 ^{*2} の力量保有者数とFDA、MDR対応者		20名	－	
		DXリテラシー標準の従業員習得レベル ^{*3}		標準を超えた従業員比率20%以上	－	
人権	当社グループは、近年の人権に関する外部環境の変化を踏まえ、「人権尊重」への取り組みを強化することで、パーパスの実現を目指していきます。	人権尊重	国連「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づき「ヨコオグループ人権方針」を策定し、人権尊重と救済に取り組んでいます。人権方針で定めるステークホルダーとの対話を重視し、サプライチェーン全体を通じた人権への負の影響を特定・評価し、具体的な課題への取り組みを推進しています。	グループ全拠点における人権研修受講率	100%	89%ヨコオ単体 (生産拠点14社) A：0社、B：4社、C：7社、D：3社、E：0社
		私たちと働く人の権利	人権における具体的な課題は、公正・公平を第一に取り組み、サプライチェーン全体で働く人の権利を尊重します。より安全・安心で、働きがいのある職場環境づくりへの取り組みを推進していきます。	ヨコオグループ主要取引先(総仕入高上位80%)に対するデュー・ディリジェンス実施率	100%	－ [2024年9月末現在97%(29/30社)ヨコオ単体]
	ステークホルダーエンゲージメント	顧客満足	お客さまから「ヨコオと取引していて良かった。もっと拡大しよう」と言っていただけの会社を目指しています。お客さまの期待に応えるため、お客様の声を真摯に受け止め、誠実に取り組んでいきます。これらを継続することにより「ヨコオ品質ブランド」を確立し、お客さまとの長期的な信頼関係を構築していきます。	通常行っている顧客満足度調査のスコアの向上	基準年(2023年度)のスコア以上を毎年度維持する	VCCS：83.9、CTC：82.3、FC：87.5、MD：68
		取引先との双方向コミュニケーション	お取引先から「ヨコオの仕事をしていて良かった。もっと貢献できるよう頑張ろう」と言っていたような会社を目指しており、そのために公正・公平な取引を追求しています。相互に価値を高め合うパートナーシップを築き、長期的な信頼関係を構築していきます。	仕入先説明会やCSR調達水準向上に向けたサステナビリティ説明会の実施	年1回以上	開催なし
地球環境	地域社会との対話・交流	地域社会の皆さまから「ヨコオがこの町にいて良かった。是非うちの子供をヨコオに入社させたい」と言っていたような会社を目指しており、そのためには地域の発展や社会が抱える課題について対話と交流が重要だと考えています。当社グループの事業や社会課題の解決に寄与する取り組みを理解いただきながら、信頼関係を築くことに努めています。	社会貢献活動	70件/年	35件	
	株主・投資家との対話	株主さま・投資家さまとの長期的な信頼関係を構築するため、正確・迅速かつ積極的な情報開示に努めています。また、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るべく、株主さま・投資家さまとの建設的な対話に積極的に取り組んでいます。	決算説明会、スモールミーティング等の実施	5回/年	決算説明会 2回	
			個別IR(国内・海外合計)	200件/年	個別IR 140件	
	地球環境	気候変動の緩和と適応	カーボンニュートラルの実現に向けて、環境方針および行動指針に基づき、気候変動への対応を強力に推進するとともに、事業活動を通じた社会の発展に貢献していきます。	GHG排出量削減 2014年度比	35%削減	－
循環型社会への移行と、有害物質の管理・削減		地球環境および人体に影響を与える物質や、廃棄物のリサイクルを阻害する物質の使用量削減をグループ全体で推進しています。環境関連法規、条例等の要求事項および顧客要求事項を遵守し、有害物質の管理と削減を通して、地球環境保全と循環型社会の実現に貢献していきます。	水使用量(原単位)2020年度比	10%削減	2020年度比16.4%	
			再生プラスチック使用率	25%以上	－	
			廃棄物のリサイクル率	グローバル80%以上	グローバル74%	
PRTR対象物質使用量削減(国内グループ)	代替物質の積極的な検討による、PRTR対象物質の使用量抑制	12,440kg				
ガバナンス	当社グループは、パーパス/ビジョン/バリューを行動で具現化すべく、あらゆる企業活動の基礎・根幹となるガバナンス体制を充実させていきます。	コーポレートガバナンス	コーポレート・ガバナンスの強化が経営の重要課題の一つであると位置付け、経営の効率性、透明性及び遵法性を確保し、経営目標の達成を目指します。	取締役会の実効性評価	5段階評価で4.5以上	－ [2024年5月実績：4.27(自己評価アンケートによる)]
		コンプライアンス	常に企業価値の向上を目指し、ステークホルダーの信頼に応えるため、経済・環境・社会に影響を与える活動に対し、透明かつ高い倫理観を持って取り組むことで、持続可能な社会の発展に貢献します。	取締役会の実効性および企業価値の向上に資する取締役会構成の最適化 ^{*4}	－	
		リスクマネジメント	事業活動におけるリスクの影響に配慮し、関連法令および規程を遵守するとともに、リスクマネジメントシステムおよびパフォーマンスの継続的向上への取り組みを通じて、リスクに適正に対応することにより企業の社会的責任を果たし、組織運営の安定化に努めます。	コンプライアンス研修受講率(ヨコオグループ全拠点)	100%	－ [2023年度3回ヨコオ単体]
				内部通報制度の認知度(ヨコオグループ全拠点)	100%	－ [2024年7月調査時45.3%]
		リスクアセスメントに基づく重要リスクの特定と施策実施の進捗確認	年1回以上	1回		
社内セキュリティインシデント重要度判断に基づくインシデント件数	40以上を0件 ^{*5}	－				

※1 クアルトリス社によるエンゲージメント調査のスコア

※2 三役：総括製造販売責任者、国内品質業務運営責任者、安全管理責任者

※3 全社員が具備すべきDXスキルとして経済産業省が定めているDXリテラシー標準を習得している社員の比率をKPIとする。

※4 女性/外国籍/独立性を中心に最適化を毎年度検討

※5 ヨコオ独自の指標である重要度が高いインシデントのゼロ化・維持を目指す。